



ドイツ絶対主義期におけるバイロイト祝祭 : ザンクト・ゲオルゲン研究

川西, 孝男

(Citation)

史学研究, 258:95-96

(Issue Date)

2007-09

(Resource Type)

journal article

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90000608>



六、ドイツ絶対主義期におけるバイロイト祝祭

―ザンクト・ゲオルゲン研究―

神戸大学 川西孝男

バイロイトは、リヒャルト・ワーグナーのオペラを上演する祝祭音楽祭で知られる国際的な芸術都市である。また、第二次世界大戦期には、この祝祭がゲルマン民族精神の象徴としてナシヨナリズムを鼓舞するために利用されたことでも知られる。

強烈な印象を放つワーグナー芸術や、大戦の暗黒の時代に隠れて、ワーグナーが定住する一九世紀後半以前のバイロイ

トは、これまで殆ど知られず、先行研究も祝祭音楽祭を中心とした、ワグナー以降がほとんどであった。

本発表は、ドイツ絶対主義期にあたる一八世紀初頭のプランデンブルク辺境伯領の宮廷都市バイロイトに隣接建造された離宮ザンクト・ゲオルゲンに焦点を当てている。当時この地に栄えた祝祭文化と、この離宮に込められた高い精神性について考察したものであり、既にバイロイトには傑出した祝祭芸術が存在したことを例証したい。